

奈良の  
むかし

第68話

# 大川杉のはなし

文・山崎しげ子

大喜びの村人たちが、杉の木に注連縄を巻き、地蔵さんを祀って大切にお守りした。以来、日曜りの夏も、この湧き水は里の田畠を潤し続けたということだ。

この湧き水で、かつては里人たちが野菜を洗い、洗濯し、桶で運んで日々の生活に用いたそうだ。

奈良県の御所市と五條市の境近くにある御所市西佐味。

地に聳え立つ「大川杉」と呼ばれる巨樹と、その根元から絶えず湧き出た有難い水のお話。

\*

ある夏のこと、金剛山麓の中腹の村で日照りが続き、稻や作物が枯れ始めた。

「ああ、困ったこっちゃ。どないしたらええのや」

村人たちが頭を抱えているところへ、一人の村人が飛び込んできた。

「湧き水や、湧き水や。大川杉の根元から水が湧き出でいるぞ」

皆が驚いて行ってみると、なるほど、きれいな水がこんこんと湧き出でているではないか。

「ああ、助かった。命の水や。これも神様のお恵みや」

内でも貴重な存在という。奈良県指定天然記念物。

視線を移せば、眼下に広がる昔懐かしい棚田の風景。葛城古道の風の森峠、高鴨神社もそう遠くない。山並みの向こうは高見山、大峰山、大台ヶ原へと続く。

三月、風も和らぎ、春の近さも感じられる。里人たちはそろそろ田起しの準備を始めるそうだ。

大川杉  
奈良原指定天然記念物として昭和58年3月15日に指定。御所市西佐味の集落の南端にあり、大川神社跡地にある老木。井戸杉と称され、根元周辺から冷水が湧き出し、大川の源となつて新池に注ぎ、かつては飲み水として尊ばれていた。

大川杉は、大正の終わりに落雷の被害を受け、直立してそびえていた2幹のうちの1幹が枯死したが、樹勢は衰えずかつ樹姿は美しい。毎年7月最終の日曜日には、注連縄を巻きつけ、豊作を祈念する神事が営まれている。



## 物語の場所を訪れよう

大川杉（御所市西佐味）へは…

奈良交通バス「東佐味」下車、西へ1.3km



問御所市まちづくり推進課 ☎0745-62-3001